令和元年度　正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、 1　自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。 2　問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3　夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第　三　者　評　価　委　員　会	
（学校評議員　　3名）	開催予定日
	書面にて開催

重　点　目　標	1　入学者の定数確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加 2　教育指導力の充実と向上 3　浄土宗門関係学校としての教育推進 4　危機管理体制の充実と再構築

学　校　関　係　者　評　価　委　員　会		
(学校評議員　　２名) (学校関係者会議　１２名) (教職員　　８名)	開催予定日	
	6月15日	2月8日

領域	学　校　自　己　評　価							第三者及び学校関係者評価
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等
1	１）志願者数安定のため、他校との違いを鮮明にし特色化を進めていくことが必要である。 ICT・AL・グローバル教育及びSDGｓを実践し、その取り組みを周知する。 ２）埼玉工業大学は、昨年度志願者が大幅に増加したが、定員の安定した確保のために、内部進学者が増加するよう高大連携の強化を進めていく。	・本校教育改革評価への理解	①近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる特徴ある教育を実践する。 ②中学生やその保護者にも有意義な情報を積極的に発信する。	・本校教育改革の柱となる新教育課程を編成できたか。 ・SHIPに基づく実践を適切な発信により効果的に周知できたか。 ・ＨＰを有効活用できたか。 ・新１年生予定者が３６０名を越えたか。 ・各種説明会で適切なPRができたか。	・ 新学習指導要領の趣旨に即した教育課程編成の大枠・方向性は整った。 ・ 新ＨＰ導入や説明会等を通して、特色を十分ＰＲすることができた。 ・総受験者数が７１名増加した。	**B**	・教務、教科主任会、ＳＨＩＰ委員会が連携して新教育課程の編成に取り組む。 ・学校案内パンフレット、学校説明会の作成・実施にあたりその内容を再検討する。特進の受験者を増やすことが課題である。 ・埼玉工業大学の募集が好調であり、内部進学についてさらに連携を深める。	・達成度「B」]で良しとすることなく、全ての領域の達成度が「Ａ」となるよう、さらに取組みを続けて欲しい。 ・学校説明会での話のとおり、進路指導体制はよく整っているが、公式大会と講習が重なった際の講習補充もできるよう検討して欲しい。
		・高大連携体制の一層の強化および生徒募集の充実	①埼玉工業大学と本校、両者の発展のために高大連携実施委員会を積極的に活動するようにする。 ②PTAの会合、学校説明会、中学校説明会において大学入試での優遇制度等を照会する。	・高大連携強化のための新たな取組を計画・実践することができたか。 ・高大交流事業は順調に行なうことができたか。 ・埼玉工業大学への内部進学者が４５名を越えたか。	・各種説明会で優遇制度などを説明し、高大連携の取組について周知した。 ・ 大学のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟへの協力、埼工大の模擬授業に参加することができた。 ・埼玉工業大学内部進学者は３６名となり、４年ぶりに３０名を上回った。	**B**		
2	１）３系統から構成される最後の３学年の総決算及び１・２学年のG－CATなどの新しい取組の充実を図る。 ２）生徒一人一人の進路実現を目指すため、意欲的な学習に取り組めるような系統的な学習指導の実現が必要である。また、課題のある生徒には適切に支援を行なう。	・本校教育改革・新学習指導要領を踏まえた新しい教育への取り組みの充実 ・学習習慣の定着、大学一般入試に対応できる進路指導体制の確立	①教務、教科、SHIP委員会が連携して指導法の工夫、指導力の向上を図る。 ②成績不振者への支援を充実させる。 ③校内研修の充実を図る。 ④グローバル教育を進める。 ⑤教育環境の充実を図る。	・適切に宿題を課し、生徒の自主的な学習姿勢や継続的な家庭学習習慣が生みだせたか。 ・「分かりやすい授業」と「基礎学力の定着」ができたか。 ・コミュニケーション能力育成のための指導が適切に行われたか。 ・研修の成果を共有し、生徒に還元できたか。 ・校内改革が順調に行われているか。 ・補習や駿台サテネットの実施により、受験対策は整っているか。 ・iPadを授業に取り入れ、教科会議等で共有を図り、教員のスキルアップを図ることができたか。 ・iPadの授業への導入、G-CATの実施により、教員がスキルアップし効果的な授業ができたか。	・定期試験前に行なわれる勉強会は、学年のみならず、教科や部活動の単位でも行われるなど、広がった。 ・職員会議において、iPadの利用やＡＬなど各教科の取組みに関する報告・発表を行った。 ・Ｇ－ＣＡＴはきめ細かく計画されたプランにのっとり、予定以上に実施できている。そのため修学旅行に向けた準備・指導も十分行えた。	**B**	・引き続き授業改善に取組むとともに、教科報告会の開催による成果のさらなる共有に努める。 ・駿台サテネットをさらに有効活用できるよう工夫する。 ・修学旅行の事後指導及び来年度Ｇ－ＣＡＴの取組みを検討・準備する。	・土曜講座が必ずしも学校の意図するような展開になっていないのではないか。生徒の声に耳を傾けながら改善を図って欲しい。 ・生徒の学力水準に見合ったテスト問題を作成するよう、さらなる研究・努力をお願いしたい。
3	１）仏教を通じて日本の伝統を大切にした教育、心の教育を実践している。 ２）自己肯定感を育み、自ら考え自ら行動できる能力の育成を図る。	・茶道や華道の授業により情操の涵養を図る。 ・時代ごとに宗教が果たした役割を理解させながらの学び。 ・宗教の授業が生徒の人格形成に寄与しているか。	①建学の精神や校訓「選択」「専修」に基づく人間形成を実現させる。 ②一人一人の適性に合った人間形成が行なわれているか。 ③日本人の習慣や伝統について、基本的な知識が身についたか検証する。	・建学の精神の具現化に向けた取り組みができたか。 ・宗教行事等を通じて、仏教が日本文化の形成に大きな役割を果たしてきたことを伝えられているか。 ・尊ぶべきものや守るべきもの、さらには尊厳を持って生きることの大切さを伝えられたか。 ・浄土宗宗門校の特色を生かした取り組みで、PTA、地域との連携を深めることができたか。	・学校及び学年宗教行事においては、年度当初計画したものについては、滞りなく実施することができた。 ・ 宗教教育が生徒指導上、部活動・進学指導上必要に応じて、人間形成の役割を果たした。 ・ＰＴＡ活動においても写経や写仏など、本校の特色を生かした取組みが行われた。	**A**	・各分掌、委員会においても「建学の精神を具現化する」という視点を持った取組みを検討し、宗教科のみならず学校全体が建学の精神を意識するよう努める。 ・地域に貢献できるような取組みが実施できるよう工夫していく。	・自分が仏教系高校の出身だったため、本校の入学式に出席し、体育館に祭壇が設置されているのを見て、とても嬉しかった。自分の高校時代のことなど親子の話題、会話が増えた。
4	１）生徒指導上の対応は適切な指導が行われている。事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携をさらに強化する。 ２）自然災害等、どのようなリスクに対しても適切な対応ができる体制を強化する。	・健康教育の推進と安全確保における支援体制の充実 ・本校の特性を生かした地域連携の充実	①生徒の状況を把握し、教職員間の情報共有・連携より協力体制を整える。 ②防災訓練を円滑に実施する。 ③不審者対応アhもとより予期せぬ災害への対応も整える。 ④警察・消防及び地元自治会などとの連携強化を図る。 ⑤誰もがＡＥＤを使えるようにし、避難時に障害となる物は撤去する。	・毎月の安全点検・修繕が適切に行われ、危機管理意識の向上が図られたか。 ・正智ウェブの活用は適切か。 ・防災訓練は円滑に行われたか。 ・不審者対応マニュアルの共通理解はできたか。 ・自然災害等における緊急対応ができたか。 ・AED使用方法の研修、確認はできたか。 ・災害時の避難拠点としての役割を果たすことできたか。	・毎月の安全点検は必ず行われ、校内での施設事故は全く起こらなかった。 ・正智ウェブは、緊急を要する場合に幅広く使用することができた。 ・ 防災訓練は順調に行われた。 ・大きな自然災害には直面しなかったが、緊急対応、地域拠点校としての役割は十分果たせる。	**A**	・「学校は安全な場所でなければならない」という視点から、さらなる改善に努める。 ・全員が取組める体制を整える。 ・防災や事故防止に関したｉＰａｄ、正智ウェブの有効な活用法を検討する。	・校外における生徒指導に引き続き取り組んでいってほしい。 ・さらなる検討や準備が必要な項目については、引き続き努力して欲しい。